

## マターナルPKUの意識調査

日本母性保護医協会 森山 豊  
五味淑政人  
皆川 進  
住吉 好雄  
黒島 淳子

先天性代謝異常症のマス・スクリーニングが昭和52年度より全国的に実施され、その実施率も昭和56年には約97%となり、フェニルケトン尿症の追跡調査も行われているが、早期発見早期治療が進むにつれて、正常に発育する症例が多くなりその女性が成人となり妊娠する今後の適切な管理の必要性が指摘され始めた。

昭和57年8月16日から6日間、国際新生児スクリーニング会議が東京で開催され、Dr. Levy教授が8月17日に日母主催の「世界におけるマターナルPKUの問題について」の懇談会に於てもその管理の重要性について改めて指摘されマターナルPKUの認識の重要性を考え、今回の私達は全国47都道府県の日母先天異常担当者にアンケート調査を実施検討したのでその調査結果を発表する。

### マターナルPKUの意識調査

#### ○アンケート項目

1. マターナルPKUについて  
(知っている——何により知ったか  
知らない)
2. 遺伝相談の専門施設  
(ある  
ない)
3. 遺伝相談施設の必要性について  
(必要性を認める  
必要性を認めない)
4. マターナルPKUの対応について  
(考えている  
考えていない)
5. マターナルPKUの治療について  
(妊娠前から治療を開始するのがよい  
妊娠と診断されてから治療する)
6. 精神薄弱、知能障害のある婦人にガスリー法によるスクリーニングの必要性について  
(賛成  
反対)
7. 知能障害のないPKUの婦人の発見方法について  
(非妊時の健康診断によって  
妊娠初期のスクリーニングによって)
8. 臍帯血によるスクリーニングに  
(賛成  
反対)
9. 現在のガスリー法について  
検査項目について  
(現在の項目でよい  
改正すべきである)  
スポット数について  
(多い  
現在の数でよい  
少ない)

## ○ アンケート結果

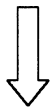
- |  |   |
|--|---|
| <p>1. マターナルPKUについて</p> <p>知っている……………42</p> <p>知らない…………… 5</p> <p style="padding-left: 20px;">栃木, 島根, 徳島, 長崎, 宮崎</p> <p>知った方法</p> <p style="padding-left: 20px;">1. 医学雑誌 19</p> <p style="padding-left: 20px;">2. 母医報 16</p> <p style="padding-left: 20px;">3. 講演研修会 15</p> <p>2. 遺伝相談の専門施設について</p> <p>県内にある……………22</p> <p>県内にない……………23</p> <p>未記入……………2 (埼玉, 徳島)</p> <p>(施設名) 弘前大, 東北大, 秋田大(小)</p> <p style="padding-left: 20px;">筑波大, 自治医大, 山梨県医師会, 新潟大, 富山医薬大, 金沢市保健所, 福井市保健所, 岐阜(金沢保健所), 愛知県立春日井コロニー, 大阪市立小児センター, 大阪市立母子センター, 大阪大, 大阪市大, 兵庫医大, 県立子供病院, 奈良医大(小), 鳥取県立中央病院(小), 岡山倉敷中央病院, 広島大, 愛媛大(小), 高知県立中央病院, 九大, 久留米大, 流球大。</p> <p>3. 遺伝相談施設の必要性について</p> <p>認める……………44</p> <p>認めない…………… 3</p> <p style="padding-left: 40px;">(福井, 熊本, 沖縄)</p> <p>4. マターナルPKUの対応について</p> <p>考えている……………23</p> <p>考えていない……………20</p> <p>未記入…………… 4</p> | <p>5. マターナルPKUの治療について</p> <p>妊娠前から治療を開始する……………24</p> <p>妊娠と診断されてから治療する……………11</p> <p>その他の意見…………… 6</p> <p>未記入…………… 6</p> <p>6. 精神薄弱, 知能障害のある婦人にガスリー法によるスクリーニングの必要性について</p> <p>賛成……………40</p> <p>反対…………… 3 (長野, 岐阜, 沖縄)</p> <p>未記入…………… 4</p> <p>7. 知能障害のないPKUの婦人の発見方法について</p> <p>非妊時の健康診断による……………18</p> <p>妊娠初期のスクリーニング……………22</p> <p>その他…………… 7</p> <p>8. 臍帯血によるスクリーニングについて</p> <p>賛成……………30</p> <p>反対…………… 8</p> <p>判らない…………… 9</p> <p>9. 現在のガスリー法について</p> <p>現在の項目でよい……………34</p> <p>改正すべきである……………12</p> <p>減らした方がよい…………… 0</p> <p>未記入…………… 1</p> <p>スポットの数について</p> <p>現在の項目でよい…………… 20</p> <p>現在の数でよい……………12</p> <p>少い…………… 2</p> <p>未記入……………13</p> |
|--|---|

以上のアンケート調査により未だマターナルPKUについて知らないと答えた県が5県あること、遺伝相談の専門施設が県内にないと答えた県が23カ所もあり、ほとんどの県が施設の必要性を認めているので早急な設置が望まれる。マターナルPKUの対応についても考えていないが20県あり早急に全国的対応と治療開始時期の問題、スクリーニングの方法等についても早急な解決が、専門的立場より協同会議と対策の必要を認めると共に、マターナルPKUについてより一層の関心の向上と諸問題点解決の重要性が認識された。なお現行のガスリー法の項目およびスポット数についての検討の必要性についても考慮すべき点のあることも指摘したい。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



先天性代謝異常症のマス・スクリーニングが昭和 52 年度より全国的に実施され,その実施率も昭和 56 年には約 97%となり,フェニールケトン尿症の追跡調査も行われているが,早期発見早期治療が進むにつれて,正常に発育する症例が多くなりその女性が成人となり妊娠する今後の適切な管理の必要性が脂適され始めた。